



浄土宗 田嶋山 迎接院

山門



2009年(平成21年)、迎接院開山350年記念事業として、奈良県吉野の樹齢300年の檜を使用して落慶されました。

本堂



1989年(平成元年)に落慶されました。扁額は大本山増上寺 法主 中村康隆台下が揮毫されたものです。

内陣



本尊は阿弥陀如来、脇侍に観音菩薩、勢至菩薩、大黒天が安置されています。

客殿



広々とした空間の客殿には椅子席をご用意しております。四季折々の景色をお楽しみください。

アクセス

【電車】
都営大江戸線
「豊島園」駅より徒歩1分

西武池袋線
「豊島園」駅より徒歩3分

【バス】
(練47) 練馬駅北口⇄成増駅南口
「豊島園」バス停より徒歩1分

浄土宗 田嶋山 迎接院
〒176-0001 東京都練馬区練馬4-25-6

TEL 03-3993-4604
FAX 03-3993-4607
URL <https://kojoin.jp/>





田嶋山迎接院こうじょういんは、法然上人の教えを守る浄土宗のお寺です。徳川家康の命令で小田原から移転してきた田嶋山快樂院誓願寺の塔頭として、一六六一年（寛文元年）に江戸浅草に開創されました。開山は清蓮社久譽上人接阿浄可和尚、開基は迎接院秀譽浄閑覚翁居士です。本坊誓願寺は当初、神田白銀町にありましたが、幕府の市街地整備や、明暦の大火などのために、神田須田町、浅草へと移転を繰り返します。開基の刀根忠次郎為景は、伊勢商人を先祖に持つ豪商として誓願寺に多額の資金を奉納したことから、住職の求めに応じて境内の一角に隠居所を与えられました。その隠居所にて念仏を行じたこと、さらに逝去してから菩提所になったことから、その法名（戒名）をもって、迎接院と命名されました。

誓願寺の各塔頭は有力な外護を持ちました。迎接院は、先祖が伊勢商

人という伝承をもつ多くの檀信徒に外護され、旗本の本目家や博物学者の小野蘭山の葬地にもなりました。

明治維新を迎えると、神仏判然令の公布、それに伴って起こった廃仏毀釈運動などの試練に遭い、各塔頭は独自に存続の道を切り開かざるを得なくなりました。そして一九二三年（大正十二年）の関東大震災を契機として、本坊であった誓願寺とも袂を分かち、二百六十年以上の月日を過ごした浅草の地をあとにして、練馬の現在地に他の十ヶ寺と共に移転。それから百年近くの時が経っています。その間、歴代住職の営々たる努力と、迎接院を支え続けた檀信徒と縁を結びながら、今日に法灯をつなぎ、歴史を刻んできたのです。

本尊である阿弥陀如来のもとに人々が集い、心よりどころとなる寺院をめざし、皆さまと共に歩んで参ります。